

人の天上の将軍の像（板彫十二神将立像） 国宝

この十二神将像はもともとは東金堂に収められていた。研究者たちは、これらの像は本尊の、医を司る仏陀である薬師如来の台座に取り付けられていたものと考えている。11世紀につくられたもので、板彫と呼ばれるレリーフ彫刻の傑作とされている。

十二神将は薬師如来の守護神としての役割を担っており、猛々しい表情で描かれることが多い。この彫刻は、しかし、ユーモラスな表情をしていることで知られており、また厚さたった3cmの檜板を使って、豊かな立体感を生み出している作品としても有名である。十二神将は様々な姿勢をしており、歌舞伎役者を思わせるような誇張された格好をしているものもある一方で、仏像のような静的な姿で表現されているものもある。

十二神将の図像学は決定的なものがなく、それぞれの像の名前は後世につけられたものであるため、それぞれの像の特定は不確実である。この展示では、薬師如来像の台座に取り付けてあった本来の姿を再現することを試みている。体の姿勢や仕草、顔の表情などの研究に基づいて、配置が決定された。